

枕崎市地域公共交通活性化協議会 令和6年度第1回会議 議事概要

令和6年4月25日(木) 15時00分

枕崎市民会館1階 第5会議室

【出席者】

委員31名中22名の出席あり

【内容】

1 開会

2 会長あいさつ

枕崎市長よりあいさつ

3 協議事項

(1) 委員の交代について

質疑なし、承認

(2) 令和5年度事業報告及び決算(案)について

(3) 令和6年度事業計画及び予算(案)について

(委員)①坊津～枕崎間の路線バスが廃止となったが、経済・医療圏が枕崎である坊津の方を取り残さないよう、南さつま市と協議するべきではないか。

②夜のタクシー、代行がなかなか見つからない。この視点も公共交通で見直されるべきではないか。

(事務局)南さつま市の交通協議会へオブザーバーとして参加している。行政間で協議し、施策反映できるよう、取組を行いたい。

(委員)①4月より南さつま市からの委託で予約型乗合タクシーを1日に最大5便運行している。

②タクシーは現在、平日は午前2時、週末は午前3時までの営業。コロナ禍でダイヤの見直しを行った。要望は預かり、不足にならないようにしていきたい。

(会長)①南薩地区の行政懇話会でも議題として取り上げたい。

(委員)利用実績を見ると、なかなか乗合となっていないことから、曜日や時間の変更を検討していると思う。事務局は利用が伸びなかった具体的な分析は行っているか。

(事務局)乗合率の向上が課題。主な需要は買い物と通院であり、病院の曜日が合わないことが乗合につながらない原因ではないかと考えている。

また、市街地発の最終便が遅すぎることもあげられる。

(委員) 病院側とも相談して、金山の方は曜日や時間帯を合わせてもらうよう依頼したら、乗合率も上がるのではないか。

(委員) 10月からの実証実験は、昨年度の経験をふまえ、利用状況と分析を丁寧に行い、確認と運行を行う材料にしてほしい。

(委員) ①10月の実証実験の予算内訳を地区ごとに教えてほしい。

②金山地区ではどのようにPRを行ったのか。

(事務局) ①だいたい金山は50万、市内全域が100万ほど。

⇒(修正) 桜山地区 136,500円、立神地区 54,600円、別府上手 233,540円、別府下手 176,960円の計 601,600円。

金山 895,480円。

②周知チラシを各戸に配布、市役所福祉課窓口でも配布、周知している。集落に向いての周知、公民館放送による周知を計3回。今後もできるだけ集落に入って周知を行う。

(委員) 予約型乗合タクシーのシステムを詳しく教えてほしい。

(事務局) タクシーとバスを組み合わせたようなもの。現在は区域型という運行をしており、おおよその時間を決め、決まった区域を走るもので、走るルートは決まっていない。

「ミーティングポイント」というバス停のようなものを、集落の公民館等に密に設け、そこに集まった人を乗せて市街地へ連れてくる。市街地側のミーティングポイントは、大型店舗や金融機関、病院等に設定し、そこで乗降できる。路線バスとの競合は避けている。

(委員) 市内全域の実証実験の実施が1ヶ月では、統計で実情が見えてこないのではないか。

(事務局) 実証実験は需要の確認も目的なので、周知を行って運行していきたい。

実証実験の目的として、交通事業者がサービスの提供が可能かどうか確認を行うという点もあるため、期間を1ヶ月としている。

(委員) 金山地区で10回以上利用しているのは3人しかおらず、その3人のために運行しているような状態。具体的に数字を出して、中身があるものにしたほうが良いと思う。

(事務局) 実証実験の目的の一つに、サービスの提供が可能かどうかの確認がある。データが多ければ多いほど精度は高まるが、サービスの提供が破綻しないとも言い切れないところがある。そもそもサービスが提供できるのかを検証したい。

そのうえで、サービスが提供できる余力があるのか、ニーズが少ないのかというデータの取得が必要となってくる。

(委員) 金山で運行できない可能性があるなら、そのデータで推測するのは無理がある。人口が多い地区は実数が増えるが、金山の結果でそこが推し量れるのか。

(事務局) 金山ではなく、市内全域でサービス提供が可能かを検証するものである。

(会長) 市内全域の実証実験は10月に1ヶ月のみ行う。金山の実証実験は通常通り行う。10月

の結果をデータとして使う。期間が1ヶ月なのは、サービスを行う側のポテンシャルを確認するため、その中でユーザーの意見があれば、+αとして吸い上げる。まずはサービスの実現可能性を探るのが今回の大きな目的。

(委員) 枕崎全体で行った場合、最大何台必要なのか。

(委員) 今回の車両台数は2台。試算上、2台であれば一般のお客さんに迷惑をかけずに予約型乗合タクシーの運行が可能。これ以上の台数ではサービスの提供は難しい。

(3) 規約の変更について

質疑なし、承認

4 その他

(委員) 4月のダイヤ改正や廃止で乗務員数-6人から-3人となったが、まだ3人足りない状態で、ダイヤカットや廃止を行っても追いついていない。

外国人の特殊技能を運転手にまで広げるよう、国会へ提出している。これが通れば、路線廃止等なくても運行ができると考えている。これまでは赤字であれば補助金をもらっていたが、現在は補助金をもらっても運行できない状態。ご理解いただきたい。

(委員) 昨年度も予算の指摘を受けて、後日修正したものが配布された。今年度も収支決算で訂正があったため、事務局でしっかり精査してほしい。

(事務局) 高校卒業後、進学や就職等で引っ越しを行うことで、人口減少が進んでいる。進学中の4年間だけでも長く枕崎市に住んでほしい。

路線バスでの通学を促す施策を検討しており、今年度、その基礎データとなるアンケートを行うことを計画している。2次的な効果として路線バスの需要増につながると考えている。

(事務局) 事務連絡

5 閉会